

政策評価書（要旨） （事前の事業評価）

事業名	護衛艦（5,000トン型DD）	担当部局	防衛政策局防衛計画課
政策体系	- 1 - （4） 防衛力整備	実施時期	平成18年6月～8月

事業の内容	<p>新たな脅威や多様な事態に実効的に対応するとともに、本格的な侵略事態にも備えるための高度な防空能力、対潜戦能力及び対水上戦能力を持つ汎用護衛艦（5,000トン型DD）を平成19年度に1隻整備する。</p>	<table border="1"> <tr> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>23</td> <td rowspan="2">完了年度：H23年度 経費総額：約848億円</td> </tr> <tr> <td>調達 ←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>配備 →</td> </tr> </table>					19	20	21	22	23	完了年度：H23年度 経費総額：約848億円	調達 ←				配備 →
	19	20	21	22	23	完了年度：H23年度 経費総額：約848億円											
調達 ←				配備 →													
所要経費	約848億円（後年度負担額を含む。）																

評価の内容

事業の目的	<p>新たな脅威や多様な事態に実効的に対応し、本格的な侵略事態にも備えるための高度な防空能力、対潜戦能力及び対水上戦能力を持つ護衛艦であって、護衛艦部隊（機動運用部隊）の防空重視グループの中核艦であるイージス艦が、弾道ミサイル警戒及び対処任務に従事している際に、航空機、潜水艦、水上艦艇等による攻撃から防護する等の役割を担う護衛艦を整備する。</p>	事業実施の効果・時期	<p>護衛艦（DD）を空対艦ミサイルの運動性能向上、潜水艦の静粛化、水上艦艇の防御能力向上等の軍事科学技術の発展のすう勢に対応した高い対処能力を持つ性能向上型の護衛艦とすることにより、新たな脅威や多様な事態に実効的に対応する能力等を維持向上させることができる。また、主として弾道ミサイル警戒及び対処に従事するイージス艦を航空機、潜水艦、水上艦艇等による攻撃等から守るとともに、イージス艦を弾道ミサイル警戒及び対処に専念させることが可能となる。 19年度に調達を開始し、23年度に就役予定。</p>
事業の必要性・適正性	<p>弾道ミサイル警戒及び対処に従事するイージス艦については、弾道ミサイル警戒及び対処に専念させる必要があるが、その際、航空機、潜水艦、水上艦艇等による攻撃に晒されることが考えられるため、DDがイージス艦の護衛に当たる必要がある。しかしながら、既存のDDのSAMシステムは、自艦防御のためのものであり、その対空能力は限定的であるため、自艦防御に加え、イージス艦を航空機、潜水艦、水上艦艇等による攻撃から守るための機能を保有する性能向上型の汎用護衛艦を整備する必要がある。 防衛大綱及び17中期防に従って適正な防衛力を整備しつつ、新たな体制に円滑に移行していくため、既存の護衛艦の除籍にあわせて能力の向上した護衛艦を整備していく必要があり、平成23年度に除籍が見込まれる護衛艦の代替として汎用護衛艦（DD）1隻を就役させる必要がある。</p>		

今後の対応

その他の参考情報

<p>防空能力等を高めた性能向上型の護衛艦の整備は、弾道ミサイル攻撃やテロ等の新たな脅威や多様な事態に実効的に対応するとともに、本格的な侵略事態にも備え得る能力等を維持向上させる効果が得られると評価できることから、平成19年度に所要の予算要求を行う。</p>	
---	--